

戦後
75年

戦災復興展

企画展

戦時下の東北学院

特別展

がけっぶちの防空壕



今年は、戦後75年を迎えます。この節目の年に、様々な企画展示やイベントを予定しておりましたが、感染拡大防止のため、規模を大幅に縮小して開催いたします。

ご入場之际には、マスク着用・手指消毒・他の来場者との距離の確保などの感染拡大防止策への、皆様のご協力をお願いいたします。

令和 2年 **7/10** [金] - **8/31** [月] 9:00 - 17:00

今年は期間を延長して、8月31日まで開催いたします
休館日：7月20日(月)、8月17日(月)

最終入場：16:30

入場
無料

会場

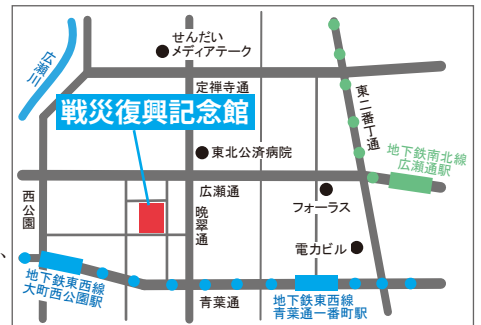
仙台市戦災復興記念館

仙台市青葉区大町二丁目12番1号

主催／仙台市

協力／仙台の戦災・復興と平和を語り継ぐ会、学校法人東北学院 東北学院史資料センター、仙台・空襲研究会、
せんだいメディアテーク(公益財団法人 仙台市市民文化事業団)、(公財)仙台ひと・まち交流財団・東北
共立グループ(仙台市戦災復興記念館指定管理者)

後援／**河北新報社**、朝日新聞仙台総局、毎日新聞仙台支局、読売新聞東北総局、産経新聞社東北総局、
日本経済新聞社仙台支局、共同通信社仙台支社、時事通信社仙台支社、**NHK仙台放送局**、
TBC東北放送、**仙台放送**、**マイギテレビ**、**IOJ東日本放送**、**エフエム仙台**、ラジオ3FM76.2、**fmうた797**、
エフエムはく株式会社



会場には駐車場がありません。
公共交通機関をご利用ください。

- 市営地下鉄東西線大町西公園駅下車、東1番出口から徒歩約6分
- 市営地下鉄南北線広瀬通駅下車、西4番出口から徒歩約10分
- 市営バス「東北公済病院・戦災復興記念館前」下車、徒歩約5分

企画展 「戦時下の東北学院」 (1階グランドロビー)



被災した校舎(東二番丁)



宣教師が撮影した仙台市内(田町)



帰任した宣教師たち

今年には「戦後75年」。仙台は昭和20年7月10日未明、アメリカ軍による空襲によって、市内中心部は焦土と化し、東北学院もこの空襲により多くの建物が被災し甚大な被害を受けました。

本展示では、仙台空襲前後の緊張感の高まりや、東北学院が受けた物心両面の被害に焦点を当て、「戦時下の東北学院」について紹介しています。さらに、戦後の東北学院の復興過程もたどりながら、日米の開戦によっても断ち切れることのなかった宣教師たちとの深い絆や、戦後復興という時代が生徒・学生たちに与えた影響などを見ることが出来ます。

また、特別展示では、戦時下に青春時代を過ごした一学生の生活や、帰任した宣教師たちによって撮影された戦後まもない仙台や近郊の写真などを紹介します。絵画3点は、いずれも当時学生であった熊谷栄吉によってベニヤ板や厚紙に描かれたものです。

協力:東北学院史資料センター

特別展 「がけっぶちの防空壕」 (1階資料展示室)



今回の展示は、令和2年3月に開催された展覧会「かけっぶちの防空壕」(会場:東北リサーチとアートセンター)で展示された内容の一部となります。



戦時中仙台市内に造られた防空壕のほとんどは、戦後復興とともに使命を終えて姿を消しましたが、崖面に掘られた横穴式防空壕の一部は、時計の針を止めたまま今も人知れず残存しています。

本展ではそれらを、仙台・空襲研究会の新妻博子氏の資料とオリジナル写真で紹介いたします。

協力:仙台・空襲研究会、伊達 伸明、せんだいメディアテーク 写真:越後谷 出

特別企画 ♪「とどけ! ほしにねがいを」♪



子どもたちからのメッセージ

仙台市内の小学生から寄せられた平和へのメッセージをシンガーソングライターの伊東洋平さんが歌にしました。子どもたちの平和を願う心や思い、夢や希望がこめられた楽曲です。会場でBGMとして流しますので、ぜひ、お聴きください。また、寄せられたメッセージの一部を展示していますので、ぜひ、ご覧ください。



伊東 洋平